

(別紙様式)

(A3判横)

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立坂戸高等学校)

目指す学校像	文武に秀で、地域に愛され、国際感覚豊かな人材を育てる学校
--------	------------------------------

重点目標	1 確かな学力の向上と高い志を育む教科指導と進路指導の充実
	2 リーダー育成を図る特別活動と部活動の充実
	3 開かれた魅力ある学校づくりの推進

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 2 4 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	①生徒の「自学自習力」が高まり、朝自習を行う生徒数や家庭学習時間数が増加している。しかし、時期によっては家庭学習時間がまだ不十分のところが、改善の余地がある。 ②予習を前提とした質の高い授業を実践し、予習→質の高い授業→復習のサイクルについて、一定程度の成果がある。さらに、教科によるばらつきをなくし、学年、学校全体の取組として、より一層の定着を図る必要がある。 ③校内外の自主的な授業公開、研究協議を拡充し、さらなる授業改善を図る必要がある。また、新校務支援システムの活用により成績処理等の効率化を進め、高大接続改革、新学習指導要領を踏まえた活発な議論を積み重ねながらカリキュラムマネジメントを推進する。	①自学自習力をさらに進化させ、学力全体の底上げを進め、時間管理と学習習慣のさらなる定着を図る。 ②質の高い授業の展開を推進・拡充する。 ③自主的な授業研究と組織的研修の組み合わせを推進する。	①朝・放課後自習、隙間時間学習の奨励し、学校生活手帳を活用した時間管理を図る。19:30完全下校を徹底する。 ②1年生学習OT・面談週間により、予習・復習法の徹底を図る。予習→質の高い授業→復習のサイクルを定着する。 ③AL や ICT 活用など新たな手法による授業改善と自主授業研修会を推進する。また、授業評価アンケートや学習状況調査、実力テストの分析を組み合わせ、生徒の学力を把握する。さらに、指導法や教材の共有化・全教科の定期考査の統一化により、評価の改善を図る。 *県教委指定事業：「質の高い学校教育の推進に係る調査研究」・「キーンソン育成プログラム」・「学校間ビブリオ」	①管理職による朝自習に取り組む生徒数を調査する。また、学習時間量調査を年2回実施し、各学年で学年数以上の学習時間量を目指す。 ②1年生学習OTの実施。面談週間の実施。授業参観時、生徒の予習・復習状況を確認する。また、授業・学校評価アンケート等で授業理解度と学校満足度85%以上を目指す。 ③授業公開を年3回以上、自主的な授業研究、組織的な授業改善の研修会を実施する。授業参観後には、フィードバックに基づく授業改善協議を実施する。また、全教科において、定期考査の統一化により、評価を改善する。	教科指導は、概ね目標を達成した。 ①110名ほどの生徒が朝自習に取り組むほか、放課後も自習室を利用する生徒が定着した。隙間時間を上手に活用した学習習慣が定着した。 ②1年生学習リエンションを実施。各学年とも授業担当者や情報共有し、きめ細やかな指導により、生徒の学習意欲の向上が見られた。授業理解度は90%に到達した。 ③若手、中堅教員を中心に、教科を問わず自主的な授業公開を実施した。また、県の諸事業と連携した授業研究会を実施した。	B A A	①全体的に家庭学習時間がまだ不十分のところが、底上げが必要である。 ②引き続き、予習→質の高い授業→復習の学習サイクルの定着を図る ③校内外の自主的な授業公開、研究協議を拡充し、さらなる授業改善を図る。 ③校務支援システムの完成年度として、適切な管理、運営の徹底と職員への周知及びその活用により、業務の効率化を進める。 ③新学習指導要領実施を踏まえ、校内組織を中心に検討を積み重ねながら新教育課程を完成させる。
	①生徒の高い志を育み、個々の確実な進路実現を進めるための指導・支援体制が整いつつある。さらに、「国公立大学及び難関私立大」への進学を実現させるためには、低学年からの計画的な指導が必要である。また、成績上位層の人数を減少させないよう、さらにきめ細かい指導と学習習慣の定着が必要である。 ②高大接続改革を踏まえ、最新情報を把握し、的確な指導体制を構築すると共に、卒業生のアンケート結果を在校生の指導及び進路指導に活用する。 ③保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」を継続している。この完成年度を迎え、より一層の理解と協力を保護者に求め、高い目標の進路を実現する段階にある。	①進路指導部・学年・教科・部顧問等が連携した進路指導体制の確立を図る。 ②生徒の「第一希望宣言」を実現するための進学指導体制の拡充を目指す。 ③保護者のための進路勉強会の継続・発展・定着を進める。	①生徒の高い志を育むため、大学模擬授業・大学見学会・社会人講演会を継続実施する。また、スタボや実力テスト結果の結果分析会を学年ごと、各教科で複数回開催し、指導方法を改善すると共に、個別進路指導に活用し、部顧問とも連携を深めながら、多方面から生徒の指導・支援を行う。 ②生徒の高い志を実現するため、進路目標校を絞り込み、学習指導・進路指導を焦点化する。そのために、授業アンケートを年2回実施し、学習時間・理解度等を分析し、授業改善と共に、朝・放課後・長期休業中に、ブログ進路補講を拡充する。 ③保護者のための進路勉強会「子どもの進学を考える会」を複数回実施し、内容・成果についてのアンケート調査を実施する。	①センター試験の受験者割合90%以上、進路目標校を「国公立大学及び難関私立大」に設定、学習指導・進路指導を目標校に焦点化し、国公立大20人以上、中堅以上の私立大学60人以上の合格を目指す。 ②スタボ結果分析会の複数回実施、大学別進路説明会の実施と大学別進学補講の導入を検討する。実力テストの経年変化と授業アンケートの経年変化を検証し、実力の変化、授業理解度・学校満足度85%以上を目指す。 ③「子どもの進学を考える会」を各学年2回以上開催し、保護者の理解が深まった。	進路指導は、校内の連携が強化され概ね目標を達成した。 ①センター試験は87%の生徒が受験した。進路指導行事の効果的な実施により、進路指導部・学年・教科が連携して進路指導にあたることができた。 ②各学年でスタボ・実力テストの分析会を実施し、生徒の学習状況と課題を共有し、対策を検討した。学校満足度は82%となった。 ③第1回「子ども進学を考える会」は273名の参加だった。第2回は257名の参加だった。(第2回は2月)	B A A	①国公立大学及び難関私立大への進学を実現させるためには、引き続き学年段階に応じた計画的な指導を実施する。 ①成績上位層の人数を減少させないよう、きめ細かい指導と学習習慣の定着が必要である。 ②「新テスト」に向け、最新情報を把握し、的確な指導体制を構築する。 ②卒業生のアンケート結果を在校生の指導及び進路指導に活用する。 ③「子どもの進学を考える会」の内容の充実と保護者の理解と協力を一層図り、高い目標の進路実現を達成する。
2	①引き続き、「学校行事の文化」、「部活動の文化」の継続・発展を進める。この実現のためには、3年間継続して生徒会役員ができるように、生徒のリーダーシップを育成するため、早い段階での生徒会役員参加を促す必要がある。 ②完全下校19時30分を継続し、効率的な部活動の実施及び学習との両立の徹底を図る必要がある。	①生徒主体の生徒会行事運営を進めるために、生徒会役員の後継者育成を継続する。 ②学校生活手帳を活用した時間管理、効率的な部活動等の実施を継続する。	①活動マニュアルを活用・改善しながら、生徒会活動の自主的な運営・生徒主体の生徒会行事を継承する。また、委員会活動からの人選、担任・部活動顧問からの推薦等により、後継者候補の発掘と学校行事を通じた意識の啓発・育成を図る。 ②学年団による学校生活手帳等の定期確認を行い、時間管理と部活動顧問による隙間時間を活用した隙間学習の奨励を図る。また、部顧問会による部活動カテゴリーの策定を進め、「文武に秀でる」生徒を育成する。	①活動マニュアル及び関係資料の再点検し、生徒の実態に合わせた改善により、主体的・自主的な生徒会行事の運営ができるように指導する。また、後継者育成の取組の定着化を図る。 ②学校生活手帳の定期的な確認と隙間時間学習を奨励。各部顧問・各担任による生徒情報の共有化を図り、多方面から生徒の指導・支援を行う。本校生の実態に即した部活動ガイドラインを策定する。	生徒会活動は、後継者育成等課題はあるものの概ね目標を達成した。 ①生徒会、実行委員会等長期的計画のもと生徒による主体的な行事運営が進んだ。 ②教科担当、担任及び部活動顧問が生徒情報の共有化を図り、多方面からの指導を実施した。	B A	①新役員体制への引き継ぎは継続的な課題である。生徒会と各種委員会の役割分担を見直し、生徒会役員の負担を軽減する必要がある。 ①引き続き、「学校行事の文化」、「部活動の文化」の継続・発展を進める。 ②部活動ガイドラインに則った効率的な部活動の実施及び学習との両立の徹底を図る。
	①本校の活発な教育活動を、HPのリニューアル(閲覧数の確認策等)及び「スマート連絡帳」への移行・運用により、地域、中学生、保護者へ情報発信する。また、小・中学校との連携については、共通理解を得ながら推進することが必要である。さらに、生徒募集活動については、引き続き、個々の活動をブラッシュアップしながら全教職員で取り組む必要がある。 ②PTA活動については、引き続き組織編成の確立を図りながら、行事の精選を含めた改善策を検討する必要がある。 ③創立50周年記念事業準備委員会が編成され、企画を検討し始めた。創立30周年以降、20年分の記録がまとめられていないため、記念誌編纂の準備を早急に進める必要がある。	①HPリニューアル等、多様な広報による情報提供を継続・拡充する。 ①近隣の小・中学校等との連携を強化し情報交換を進める。 ②PTA組織改編後の調整及び行事の精選を進め、保護者の参加を促す。 ③創立50周年記念事業準備委員会により、記念誌編集準備を進めながら、記念事業の具体案をまとめる。	①HPリニューアル、学校案内、マスメディアの活用など、多面的な広報活動に引き続き取り組む。生徒募集活動については、説明会参加や訪問、見学の受入、学校主催の説明会・体験会等を継続し、データに基づき戦略的・積極的に全職員で取り組む。 ①近隣の小・中学校との連携事業を組織的・計画的に実施する。その際、事業の成果指標に生徒の活動前後での変容を盛り込む。 ②学校カレンダーの配布、「スマート連絡帳」の導入により、PTAと連携を密にし、活動の円滑な進行と保護者への行事の周知を徹底することにより、学校行事や公開授業・HR懇談会・保護者面談への参加者を増やす。 ③創立50周年記念事業準備委員会を3回以上開催し、記念誌編集部会による編集方針・構成等の検討を進める。また、記念事業の内容について具体化し、予算案を編成する。	①HPのリニューアル、アクセス件数の増加、多様な広報回数を検証する。また、学校説明会への出席者数、中学校・塾説明回数、進学フェアなどでの個別相談者数を確認する。 ①小・中学校との連携事業の回数や本校生徒への効果(意識等の変容)等についても検証する。 ②保護者の学校行事への参加者数、授業公開やHR懇談会、保護者面談の参加状況の検証、保護者アンケートにおける学校満足度90%以上を目指す。 ③創立50周年記念事業準備委員会の開催状況、記念誌編集部会の立ち上げ・進行状況、記念事業の具体案・予算案の編成状況。	開かれた学校づくりについては概ね目標を達成した。 ①HPを71回更新した。アクセス件数は前年比10%増加した。説明会参加者数等は前年並みであったが、個別相談は増加した。 ①隣接小学校との交流活動(13回)、中学校への出前授業(6校)を行い、高評価だった。 ②PTA行事への保護者の参加状況は前年度並みであったが参加者からは好評であった。保護者アンケートでは、学校満足度が95.4%であった。 ③創立50周年記念事業準備委員会を4回実施。	B A A	①HPのリニューアル及びメール配信の新システム移行・運用を引き続き円滑に行う。 ①小中学校との連携については連絡を密にとり、共通理解を得ながら推進する。 ①より効果的、効率的な生徒募集活動を全教職員で取り組む。 ②引き続き組織編成の確立を進めるとともに、PTA行事の精選を含め、検討を進める。 ③創立50周年記念事業実行委員会の円滑な運営を図り、実施に向けての準備を進める。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	6名

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成31年2月13日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・年々、授業が良くなっている。生徒も非常に素直に真剣に望んでいる。学校が一体となって、授業改善に取り組んでいる様子がわかる。 ・評議員を5年間務めさせていただいているが、年々教員は大変になっている感じがするが、一生懸命さが伝わる授業である。 ・家庭研修中の3年生が登校して勉強している様子なども、自学の文化の一端ではないか。また、授業理解度9割も素晴らしい数字である。 ・授業をとおして、生徒がそれぞれの課題に一生懸命取り組んでいる様子が印象的であきらめかけている生徒がいない。第2外国語の授業は、非常に良い緊張感で集中した授業で、今までの積み重ねが見てとれた。	
・子どもに、早い時期から目標を持たせることは重要である。 ・推薦での合格が増えている。一般入試で挑戦することとの兼ね合いも難しいと思うが、「早く決めたい」、「安易な妥協」でなく最後まで目標の実現に向けて頑張ることが必要である。 ・子どもの進学を考える会は素晴らしい取組だと思う。	
・部活動はよくやっているのではないかと。生徒会の役員選出に苦勞しているようだが、忙しい中でよくやっていると思う。 ・中学の生徒会も率先してやる子が少ない。意図的にリーダーを育てる必要がある。 ・生徒会役員は、自分の意見のあるしっかりとした生徒という印象がある。	
・ホームページの更新も、修学旅行先の沖縄から更新するなど保護者に安心感があり、学校の様子を実感できているのではないかと。 ・部活動には、小高連携事業でお世話になっているが、どの部活動も意義を理解している。リーダーシップを取り、教え方も非常に上手い。部活動の成績だけでなく、力をつけていると実感した。生徒の成長を感じる。 ・学校満足が95%は素晴らしい数字だと思う。 ・学校が良くなっている。入学しただけで満足するのではなく、入学してからも満足している証ではないか。	